

文化サイト

五島列島(下五島エリア)ジオパーク

番号	地区	サイト名	分類	見どころ等(キーワード)	概要
1	福江	江湖の水中遺跡	五島の大地	ハイドロアイソスタシー	潮間帯に位置し、満潮時には深さ1mほど海中に没する。出土遺物は貝をはじめとする動物遺体、骨角器、石器、土器などで、土器は九州縄文前期に位置づけられる曽畑式土器のみの出土。土器より5310±40yBPの年代が出ている。
2	福江	大浜遺跡	五島の大地	ハイドロアイソスタシー	平地部と海岸部砂浜一帯に広く分布する。満潮時には砂浜の一部が海中に没する。縄文から中世に至る遺構・遺物が発見されているが、中心となるのは古墳時代から古代にかけてである。弥生中期～後期の12体の人骨と副葬品からは、牛の歯が出土。魏志・倭人伝”(3世紀の日本には牛馬はいないと記述されている中国の史書)を覆す発見として話題になった。他にも2400年前のドングリピット(中島遺跡)も発見されている。
3	三井楽	ふぜん河	大陸との繋がり	遣唐使	遣唐使船の乗組員たちの飲料水として利用されていたとされる井戸。渇水期でも枯れることなく、良質の飲料水として喜ばれた。丸い石を積んで井戸がつくられている。現在も水が湧き出る井戸。うなぎのふーちゃんが生息しているらしい。
4	三井楽	岩獄神社	大陸との繋がり	遣唐使	遣唐使守護の任にあたり、順風を待っている間に病死したくさり鎌名人を祀った神社。賽銭箱に鎌が置いてある。
5	三井楽	空海記念碑	大陸との繋がり	遣唐使	遣唐使にとって日本最後の地となった柏崎に建てられた石碑。第16次遣唐使で唐に渡った空海の言葉「辞本涯」を刻む。
6	岐宿	白石のともづな石	大陸との繋がり	遣唐使	遣唐使たちが船の修理や食料補給、風待ちをするために白石湾に入った際、船のとも綱を結んだとされる石。小さな祠の中に漁業、海上安全の神として祀られている。
7	福江	六角井	大陸との繋がり	明・井戸	井戸枠を六角形に板石で囲み、井戸の中も水面下まで六角形の井壁が板石でつくられ、六角柱を地中にたてたような井戸。この型の六角井は県下に3個あり、所在地はいずれも港町であり、唐船との交渉がもたれた場所である。天文9年(1540)五島領主17代盛定のころ、活躍していた五峰(ごほう)王直(おうちよく)が交易を求めて来航したので、盛定は居城(江川城)の対岸に土地を与え、唐人町を開かせた。その際、来航してきた唐人達が江川城本丸下につくったのがこの井戸であると伝えている。五島における倭寇時代の遺跡の一つ。
8	福江	明人堂	大陸との繋がり	明	天文9年(1540年)、当時東シナ海を舞台に貿易商として活躍していた明国の王直は、通商を求め福江に来航、財政的に苦しかった領主宇久盛定は喜んで通商を許し、江川城の高台に居住地を与えた(現在の唐人町)。その一面に王直ら中国人が、航海の安全を祈願するために廟堂を築き、その跡が現在の明人堂であると云われる。現在の明人堂の石材は中国から取り寄せ、中国風の瓦葺きや壁画も中国の工人によってなされたもの。
9	富江	勘次ヶ城	大陸との繋がり	倭寇 玄武岩利用	玄武岩の火山礫で築かれた砦状の大型の遺構。その建築様式から倭寇の拠点だったとされる。江戸時代に勘次という村人が河童と一緒に建てたという伝説から、勘次ヶ城と呼ばれている。
10	奈留島	奈留島の江上集落(江上天主堂とその周辺)	複雑な地形と文化	教会	江上天主堂は、大正7年の建築で鉄川与助の設計・施工。我が国における木造のカトリック教会堂建築のうち完成度の高い作品として、歴史的価値を有する。また、長崎県を中心に多くのカトリック教会堂を手がけた鉄川与助の代表的木造教会堂建築としても重要である。

文化サイト

五島列島(下五島エリア)ジオパーク

番号	地区	サイト名	分類	見どころ等(キーワード)	概要
11	久賀島	旧五輪教会堂	複雑な地形と文化	教会	切支丹禁制解除にともない建設された教会堂のひとつで、もと久賀島の浜脇に明治14年に建てられたものを昭和6年頃に現在地に移築したと伝える。昭和59年に隣接して新教会堂が建設されたことにともない、五島市に寄贈され保存公開されている。カトリック信仰が盛んであった長崎地方に残る数少ない明治初期の木造単層の教会堂で、在地の教会堂建築の様子を知る上で歴史的に貴重である。
12	福江	堂崎教会	複雑な地形と文化	教会	明治41年(1908)に野原与吉により竣工。教会堂は福江島の北東端、田ノ浦瀬戸に面した奥浦湾入口の海岸部に立地する。大正6年(1917)頃に改築。かつては全五島の布教の中枢基地であった。また、社会奉仕施設や修道院の草分けでもあり、キリシタン史上からも重要な位置を占めている由緒ある天主堂である。現在は巡回教会となっている。
13	玉之浦	御岳の魚見台	複雑な地形と文化	漁業	御岳の頂上に魚見台の石積み遺構が残る。明治初期から末期にかけての無動力時代に、井持浦湾内にブリの大群が侵入すると、白鳥神社の波止場と井持の波止場を結ぶ一直線に「建切網」を投下し、ブリ等を捕獲した際の「見張り所」として郷民に馴染み深い場所。
14	福江	石田城(福江城)跡	火山と文化	玄武岩利用	石田城は、外国船警備という国防のために江戸時代最後に築城された。日本で最後に建造された海城。石垣には、鬼岳ほかの火山から流れ出た溶岩の石が使われている。
15	福江	福江武家屋敷通り	火山と文化	玄武岩利用	福江武家屋敷通りには中級武士の屋敷が残る。石垣は、海岸から運んだ玄武岩の丸石を主体に築かれ、上に小石(こぼれ石)が積まれ、それを押さえる半月型のかまぼこ石(脇石)が特徴。
16	富江	富江陣屋の石蔵	火山と文化	玄武岩利用	富江陣屋の遺構として、藩米貯蔵の倉庫の石造部だけが残る。富江産の玄武岩の切り石で築かれている。カンコ口棚などにもこの溶岩で作った石垣が多用されており、石の町富江のひとつの象徴。
17	福江	福江大津の岩川	火山と文化	玄武岩	五島市大津地区に点在する鬼岳溶岩台地からの伏流水が湧水する場所。地元では、このような湧水地を「かわ」と呼び、洗濯場や野菜の洗い場として利用してきた。農村集落を代表する景観でもあり、福江地区の地形的特色を持った場所である。
18	富江	富江の円畑(まるはた)	火山と文化	玄武岩利用	日本の耕地の原初形とも言われ、五島には丸い畑が各地に見られる。玄武岩の丸石で囲んだ円畑。道路からもその形がよく分かる。
19	三井楽	三井楽の円畑(まるはた)	火山と文化	玄武岩利用	日本の耕地の原初形とも言われ、五島には丸い畑が各地に見られる。昭和30年代に民俗学者宮本常一氏の紹介で有名になった。季節風から作物を守るため、防風垣、椿の防風林で畑を囲う。
20	富江	富江のスケアン	火山と文化	遠浅の海、玄武岩利用、漁業	石積みを復元し、観光に活用。典型的な縄状パホイホイ溶岩の姿で残る遠浅の溶岩海岸に位置する。
21	三井楽	三井楽のスケアン	火山と文化	遠浅の海、玄武岩利用、漁業	建築時代は不明だが、底部で約1.5m、上部で50～80cm、高さが1mから最高1.5mに積み上げた石塁、約80mにわたって入江を中断している大規模な遺構。